

岩岳・親ノ原の植物採集

八 幡 泰 平

本会の第85回例会は、昭和56年9月19・20日両日、北安曇郡白馬村岩岳～親ノ原で植物採集会としておこなわれた。参加者は、当日参加を含めて、奥原弘人、小口好久、上条重利、豊国秀夫、中沢袈裟延、古谷義人、堀米富平、横山康江（会員外）の諸氏と幹事八幡の総勢9名であった。

第1日。宿泊場所は、白馬村切久保岩岳スキー場のロッジ「いとう」。天気が思わしくなかったため、宿泊者は幹事を含めて、わずか4名で淋しい限りではあったが、植物学四方山話に花を咲かせた。生憎、夜から雨になった。

第2日。早朝なお雨が降っており、雨中採集会になるかと危ぶまれたが、間もなく晴れ間が見えて来た。当日参加5名を加え、総勢9名となった。出発予定時刻には、すっかり晴れ、絶好の採集日和となる。マイカーで見えた方々の車に分乗させて貰い、諏訪神社附近迄行き、後は採集しながら歩く。ヤマハツカ、フジテンニンソウ、ハネガヤ、サラシナショウマ、クサボタン、ヤマハギ、ナンブアザミ、ゴ

マナ、ヤブマメ、シラネセンキュウ、コシオガマ、ケアブラチャン、ヨメナ、ツルキケマン、コブナグサ、モリアザミなど見られた。楠川沿いの橋のたもとで、実物を前にして、奥原先生のフジキとユクノキの違いについての解説があった。「フジキは冬芽が白い紙状の袋の中に入っているが、ユクノキの冬芽は、褐色の毛が密生している」という。ナガホノナツノハナワラビがたくさん生えている場所を見つけ、皆思い思いに写真を撮ったり、採集したりする。エゾボウフウ、クマイザサ、サカゲイノデ、オオメシダ、クロウメモドキ、ミヤコアザミ、クロバナヒキオコシ、ホウチャクソウ、ダンドボロギク、オオネバリタデ、チャガヤツリ、モリアザミ、ミヤマカラマツソウなど次々にあらわれ、また、イヌコリヤナギの大型のものがあつた。発電所附近で昼食をとり、親ノ原へ向う。奥原先生が以前、シロバナフジアザミを見られたという池のへりを探したが発見できなかった。湿った場所では、アケボノソウ、アブラガヤが今を盛りと咲いていた。

黒姫山北麓の植物採集

和 田 清

今年度最後の採集会（昭和56.10.3-4）は、岩壁のアカシデがあざやかに紅葉し始めた、長野県北端の県境で行われた。室内例会にするか採集会かは、担当幹事におまかせという事務局の見解があつたので、植物誌調査の追い込みに少しでも協力できたらということから、例年より1回多い野外例会であつた。

今回は、日本海側の植物と渓谷林を紹介したいと思い、黒姫山北麓を選んだが、参加者（奥原弘人、小口好久、尾台喜貞、北村英一、中沢袈裟延、中村英夫、平林陸男、古谷義人、丸山利雄、渡辺隆一の諸氏と幹事の和田、信大学生3名）の顔ぶれを見て、植生は割愛し、専ら採集に当てられた。つり橋を二つ三つと渡る度に、県境を出たり入ったり、植物相も豊富で、人数、コース共に格好な観察場所であつた。できれば、春にもう一度開催できたらと思った

ほどである。採集品は、植物誌資料として納入済、（標本番号013949～4000、016001～6018）であるが、主なものは次のようである。

サワグルミ、オヒョウ、アカイタヤ、ヨグソミネバリ、ブナ、ミズナラ、ユキツバキ、ハイイヌガヤ、チャボガヤ、オオバクロモジ、マルバマンサク、ケアブラチャン、ヒメアオキ、サイゴクミツバ（ユキグニ）、コシジシモツケ、オオイタドリ、チョウジギク、オオシラヒゲソウ、ホクリクダイモンジソウ、ミヤマカラマツソウ、ミヤマアキギリ、テンニンソウ、ホソバツルリンドウ、クロバナヒキオコシなど。

後日、奥原先生からは、アオキランという珍品の同定結果ほか、丸山先生からも何種かについて御教示の私信をいただいている。両先生をはじめ、参加会員の御協力に厚く御礼申し上げる。